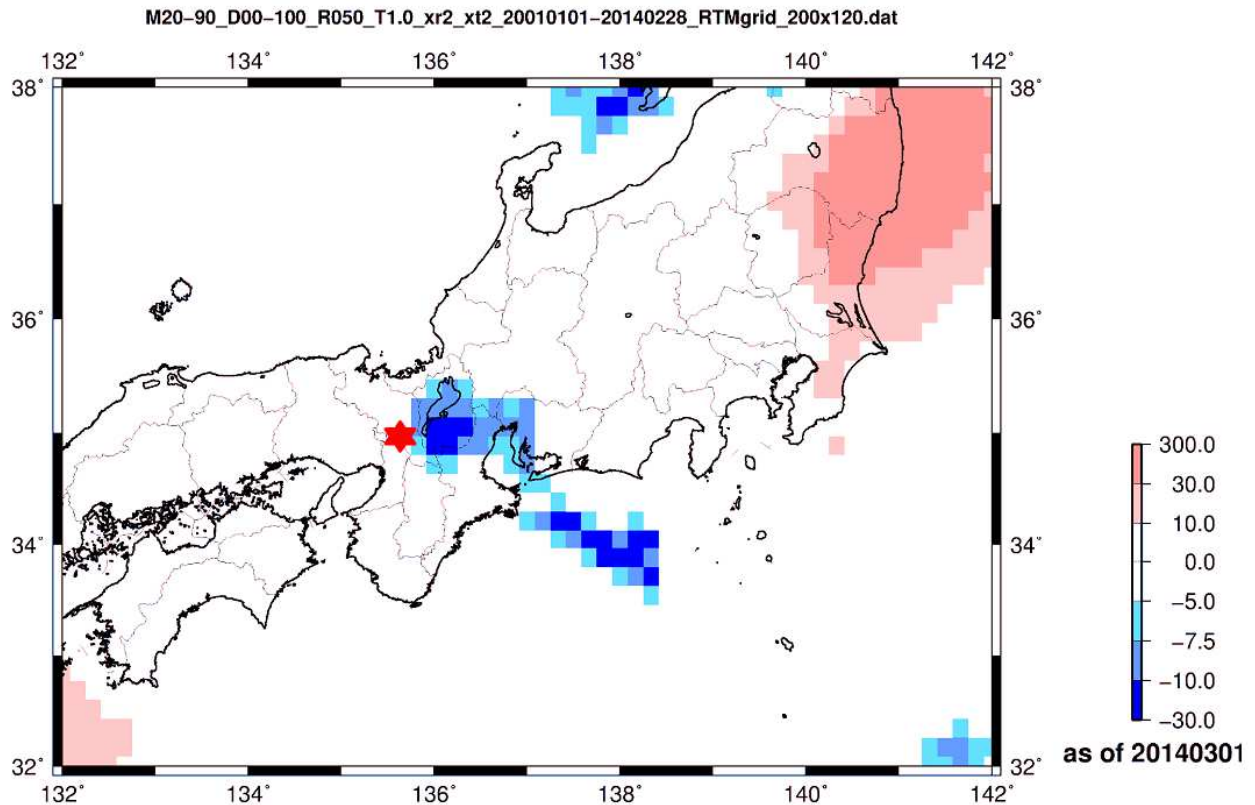


東海・近畿・中国四国地方の地下天気図

前回のニュースレターでは日本全体を対象とする比較的規模の大きな異常の抽出を行ない、秋田沖に広がる地震活動静穏化領域（青い領域）と九州北部および沖縄周辺に広がる3地域で今後注意が必要との見解を示しました。

本日のニュースレターでは、地域を区切って、さらに小さな地震まで解析に使用し、地震活動の揺らぎを捉える事を目的としています。



これまで何度も関西地方では京都を中心とした地域に異常が存在すると報告してきました。地下天気図では、上に示す地図も重要な情報ですが、時間的な変動を見るためには、その場所（例えば東京23区ですとか、横浜、静岡といった個々の都市）での時系列グラフというものがより重要な指標となります。

今回は図中に星で示した京都市近傍（北緯 35 度、東経 135.8 度）の時系列グラフというものをお見せします（次ページ）



上のグラフが京都市近傍におけるRTM値の変化です。2003年からの約10年間の記録です。2013年半ばにRTMの値は最も小さくなりました（つまり地震活動が静穏化した）。その後、元の状況に戻りつつあると判断（地震の発生が近い？）していたのですが、ここ1ヶ月ほどでまた低下傾向に転じた事がわかります。つまり、RTMの解析が正しければ、現時点では京都周辺での地震の可能性は先送りになったと考える事ができます。

なお、3月1日の時点の地下天気図から顕著な異常はこの地域に存在していないと考えています。

昨今の魚の異常

日本海側でダイオウイカやリュウグウノツカイの捕獲といったニュースが今年になってから頻繁に報道されています。さらに3月1日には青森県むつ市沖で深海ザメの一種であるカグラザメが定置網にかかっていたとの報道がありました。日本海側の異常は今年の寒さや大陸からの汚染物質の流入も考えられると思います。

このような情報は興味本位に報道されますと、あたかも突然異常が増えたように見える事があります。一番重要なのは、定常的にこのような「めずらしい魚の捕獲」を記録しておくデータベースではないかと考えています。現在のネットの検索機能等を活用すればこのようなデータベースを構築していく事もあながち不可能ではないと考えています。

動物は未知の能力を持っており、我々が知らないだけなのだと考えています。